

「あなたの生活についての調査」結果について

イラストを見て、自分の生活の中で大変だと思っていることがある小中学生



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



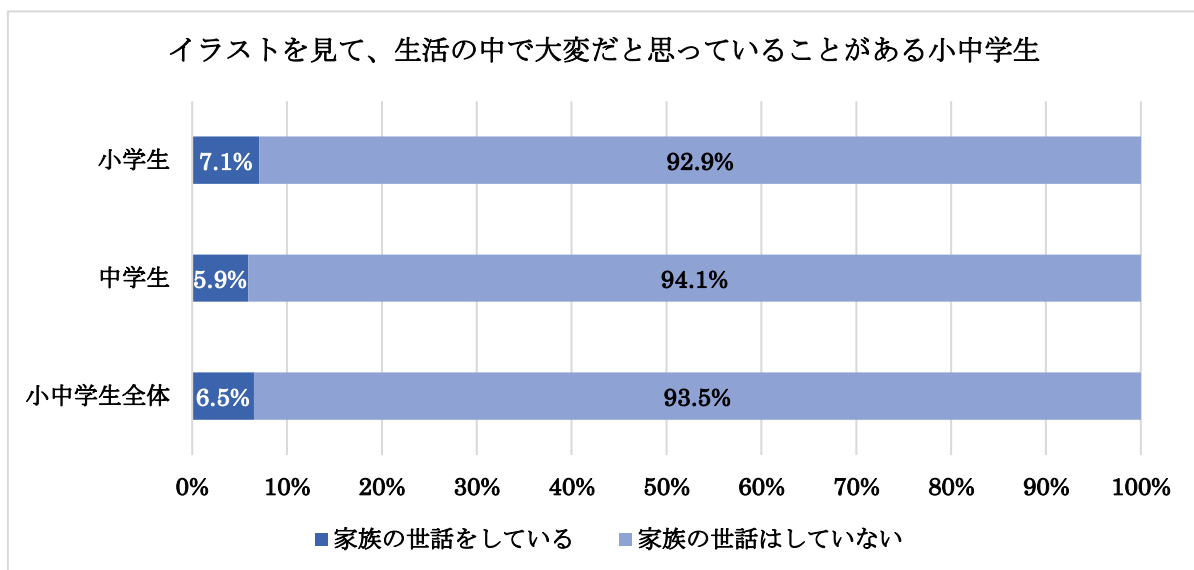
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

一般社団法人日本ケアラー連盟の示した具体例 より

イラストを見て、自分の生活の中で大変だと思っていることがあった小中学生

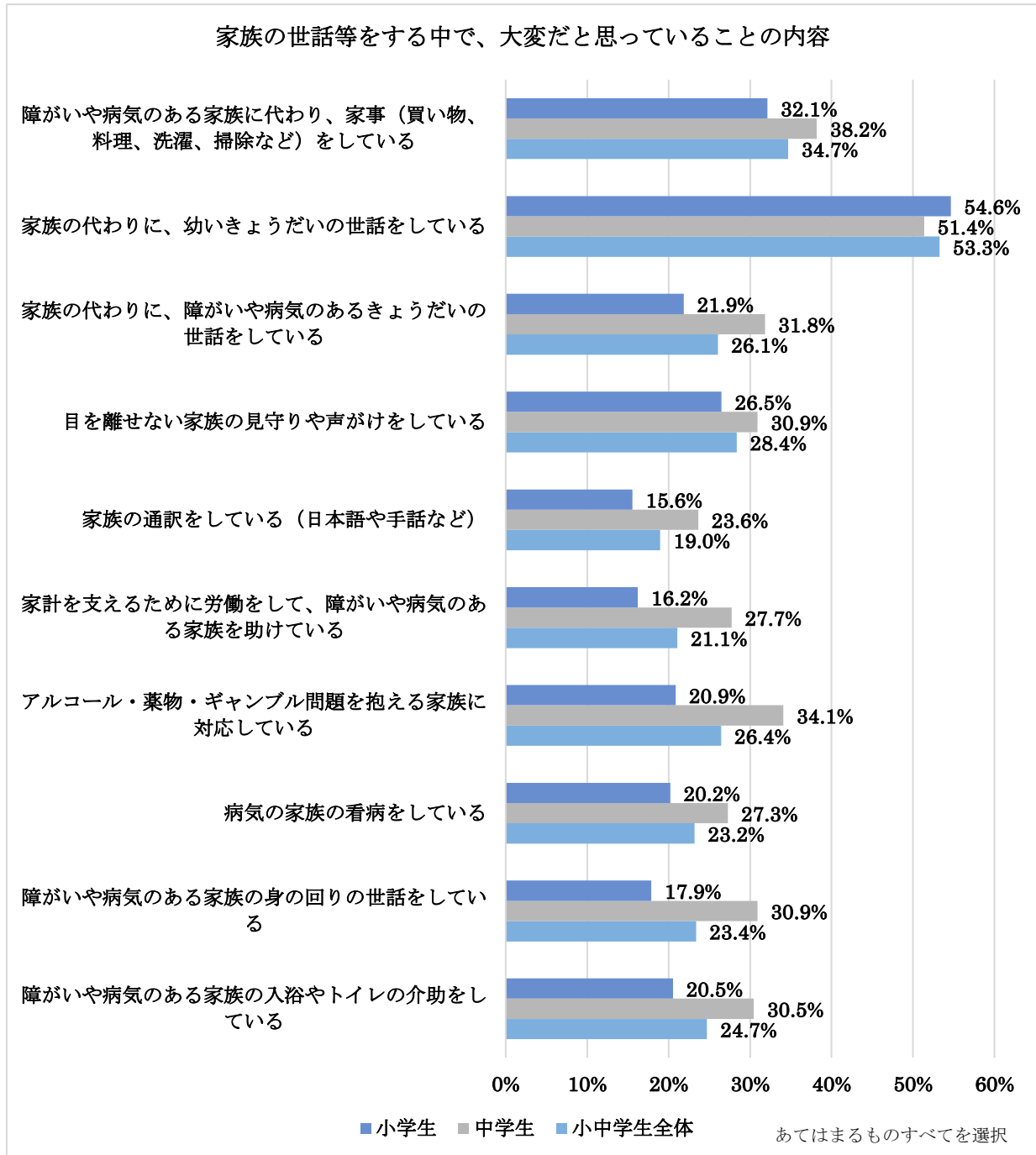
小学校（4～6年生）	中学校（1～3年生）	小中学生全体
7.1%	5.9%	6.5%

※ 一般社団法人ケアラー連盟の示したイラストから選択



上記のイラストを見て、自分の生活の中で大変だと思っていることがある小学生は7.1%、中学生が5.9%、小中学生全体では6.5%であり、市内小中学生の15人に1人程度、「ヤングケアラー」の可能性のある子どもが存在するという結果であった。

家族の世話等をする中で、大変だと思っていることについて

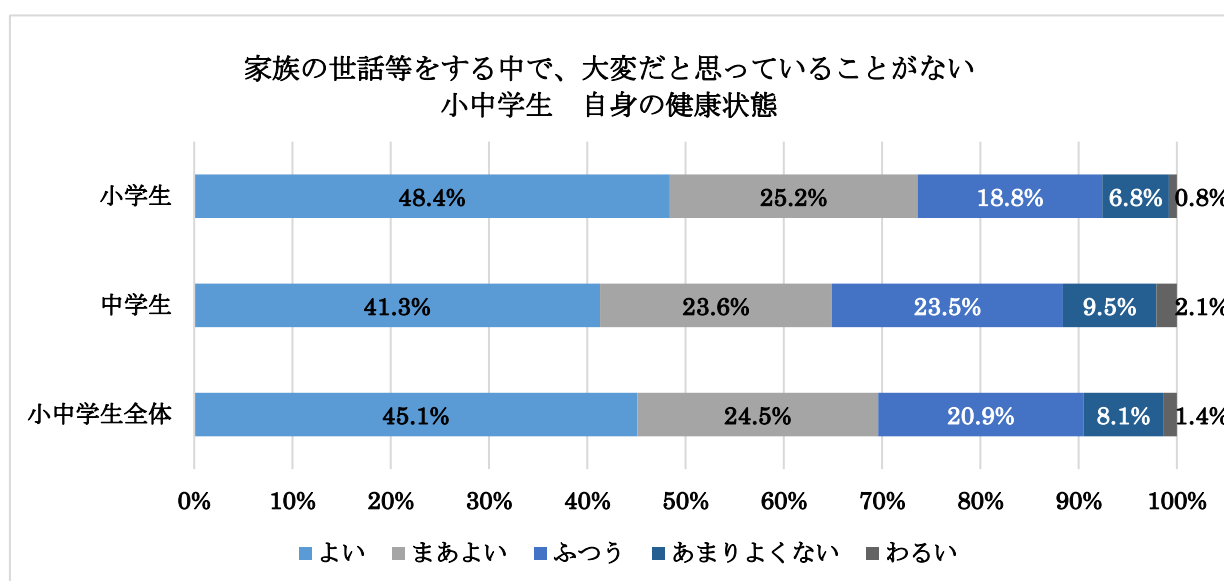
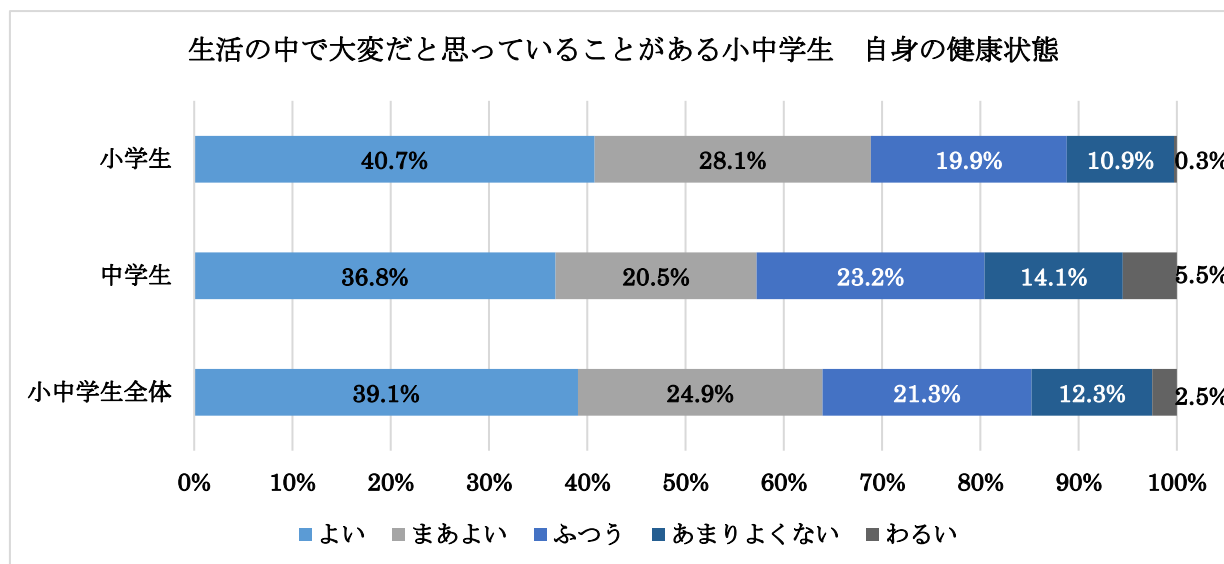


家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがあると回答した小中学生が選択した内容は、小中学生ともに「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が多い。この項目は小学生の方が中学生よりも高い割合であるが、他の項目については、すべて中学生の方が高い割合であった。

家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがある

小中学生の生活の状況について

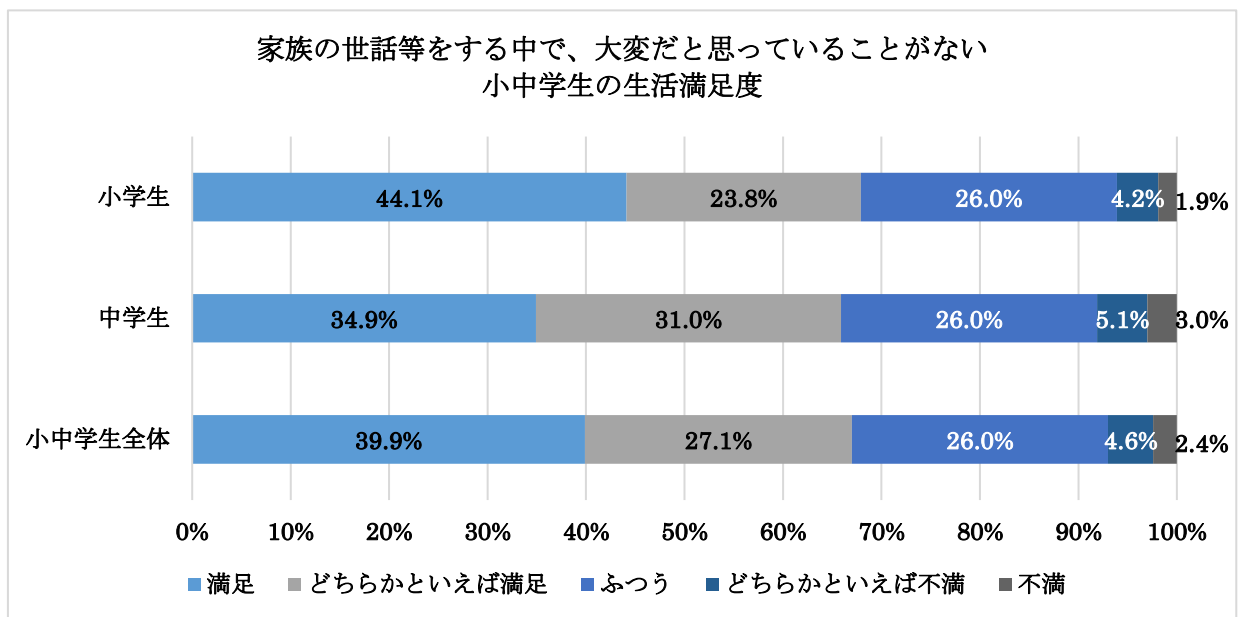
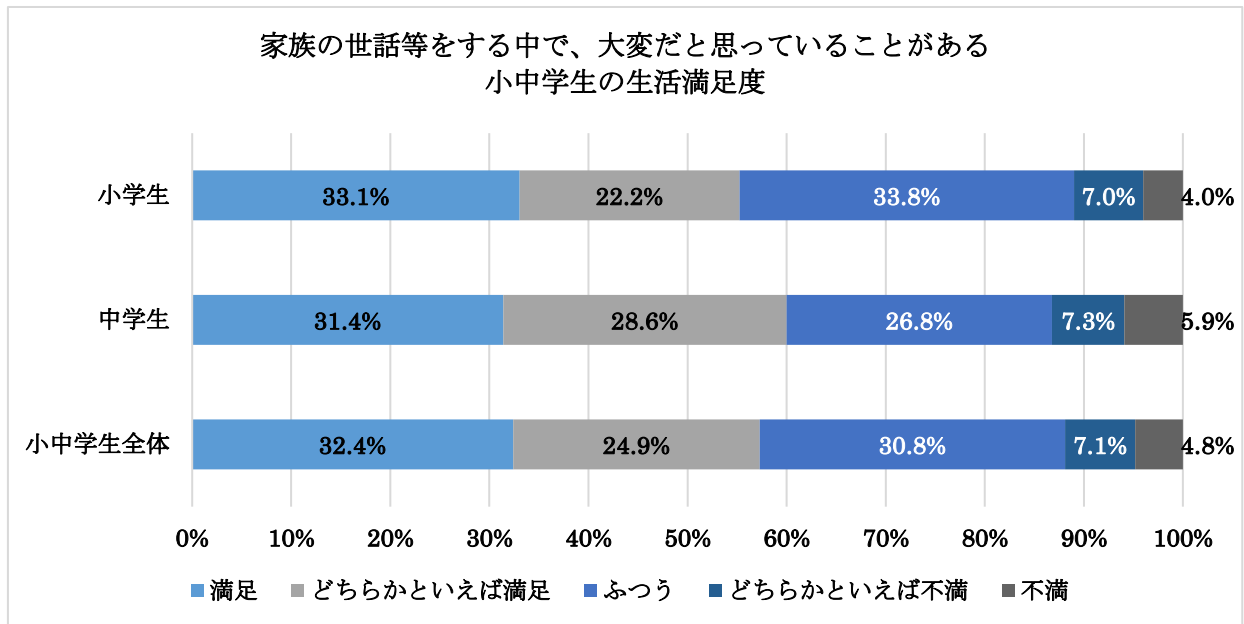
自身の健康状態について(調査日を含め1か月程度の状態)



家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがある小中学生は、そうではない小中学生に比べると、自身の健康状態について「よい」「まあよい」を合わせた肯定的な回答の割合がやや低くなっている。

一般社団法人日本ケアラー連盟の示したイラスト (P.2 参照) にあるような家族の世話や介護を行っていることが、自身の健康状態に影響を与える要因になっている可能性がある。

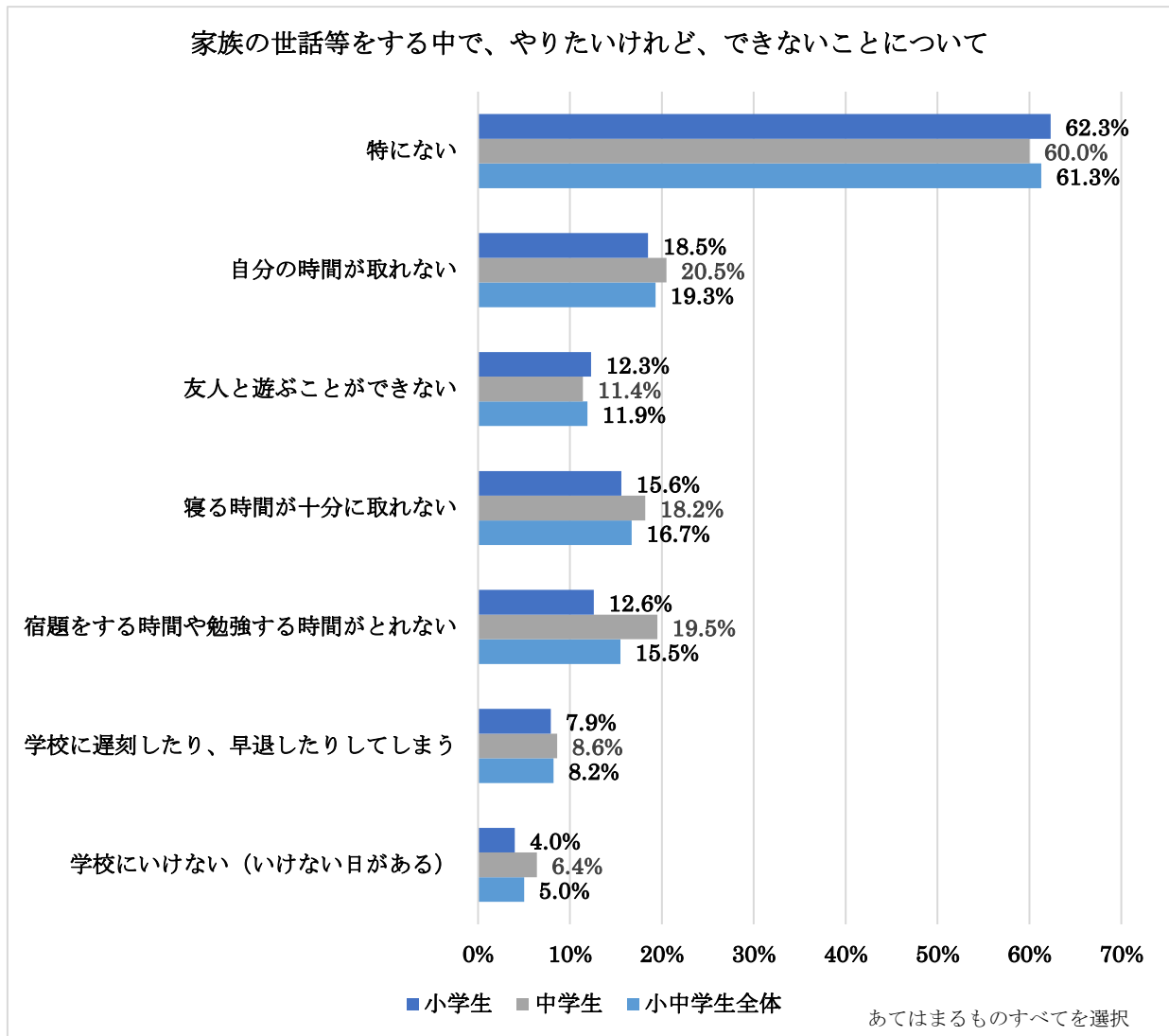
生活全般に関する満足度



家族の世話をしている中で、大変だと思っていることがある小中学生は、そうではない小中学生に比べると、生活満足度について「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた肯定的な回答の割合がやや低くなっている。

家族の世話をしていることが、自身の健康状態に加え、生活満足度にも影響を与える要因になっている可能性がある。

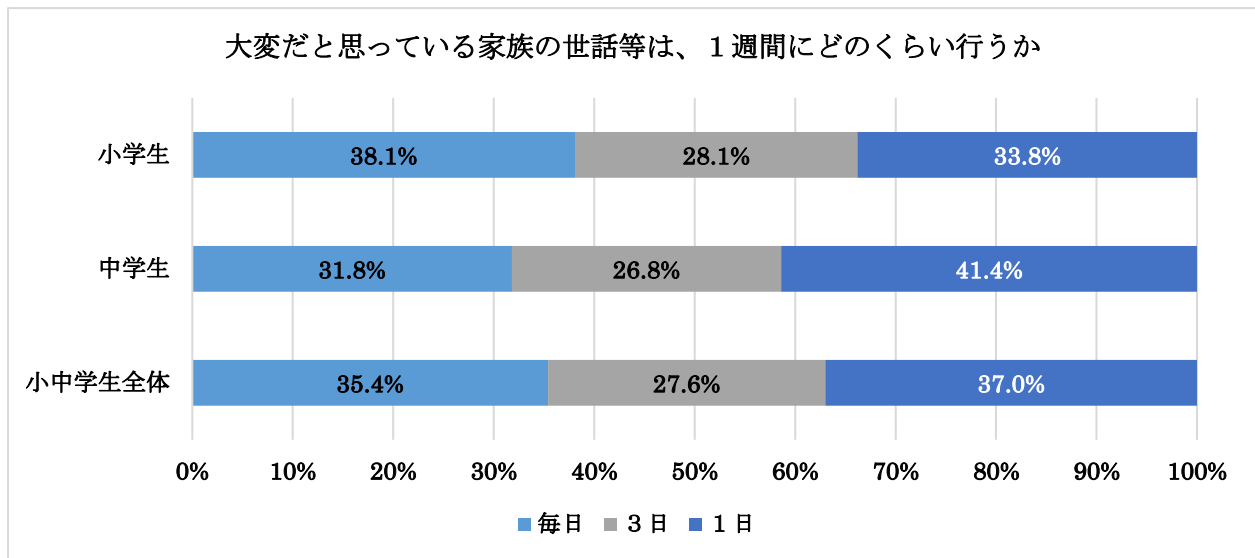
生活の様子



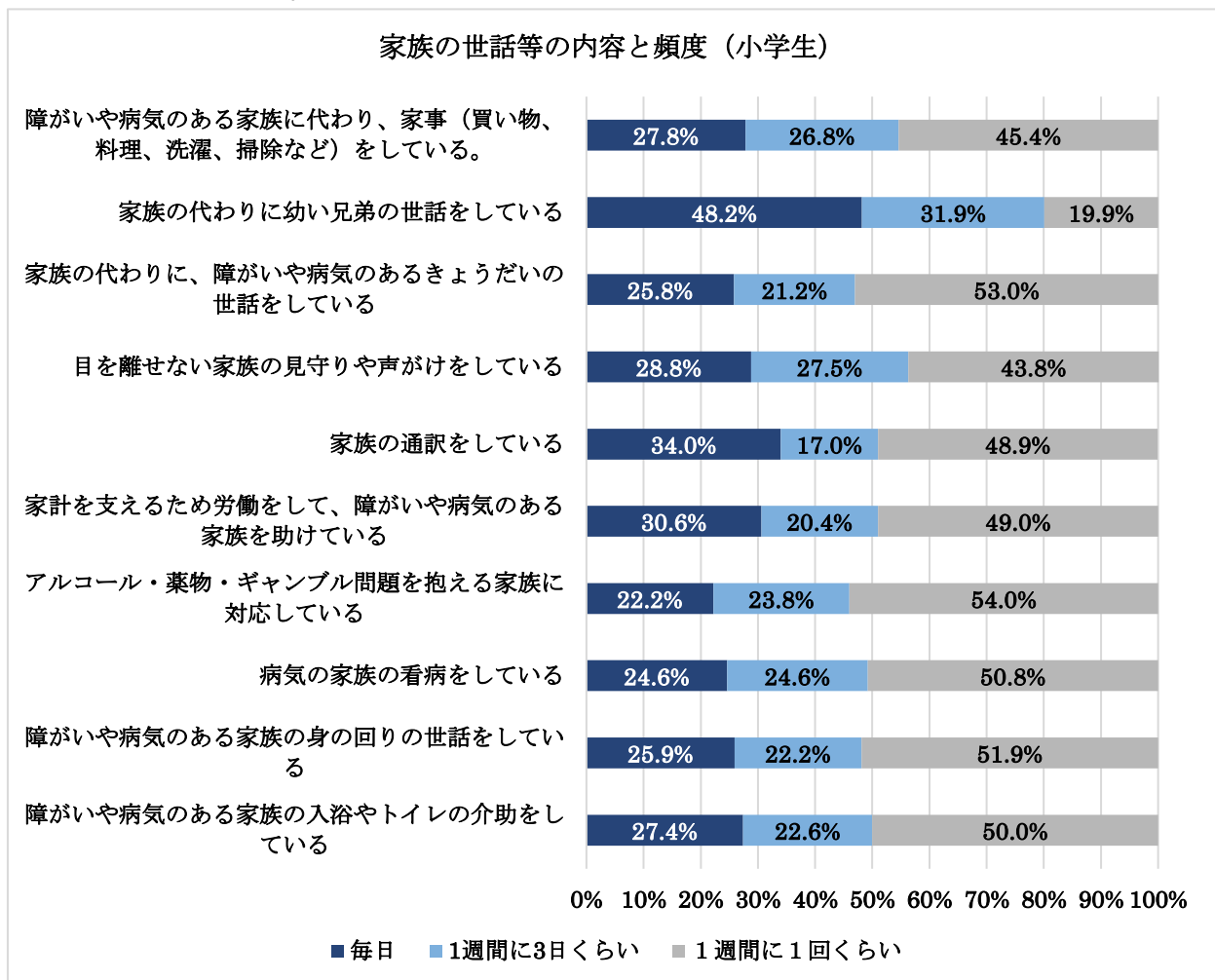
家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがある小中学生のうち、やりたいけれどできないことについて「特にない」を選択した割合は6割程度であった。

やりたいけれどできないことの内容としては、小中学生ともに、「自分の時間がとれない」「宿題をする時間や勉強する時間がとれない」「寝る時間が十分にとれない」が他の項目より、やや多い傾向にある。

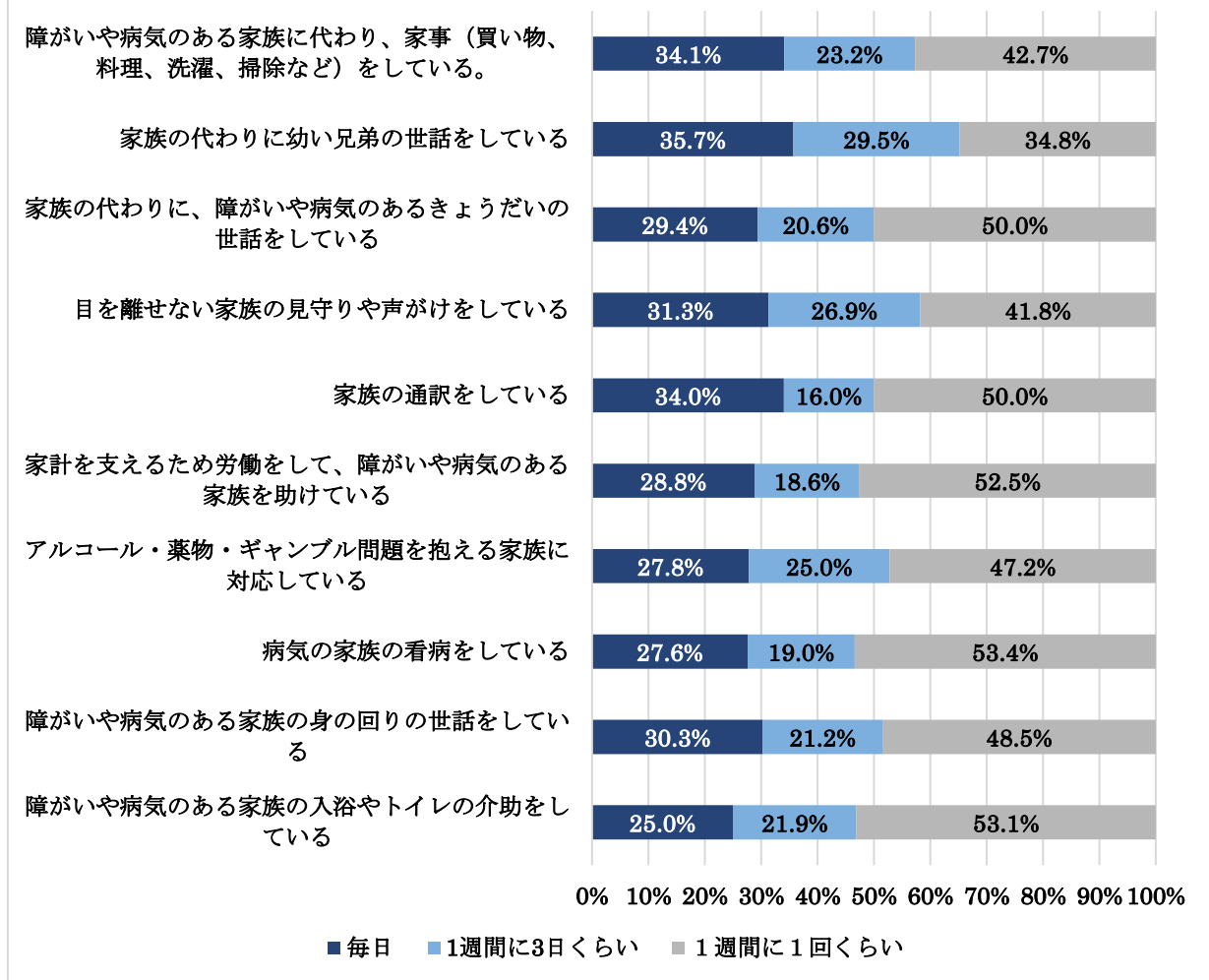
大変だと思っている家族の世話等を行う頻度



家族の世話等を1週間に1回程度と回答した、小学生は66.2%、中学生は58.6%、小中学生全体で63%であった。大変だと思っている家族の世話等がある小中学生は、半数以上が1週間に3日以上、家族の世話を行っている。



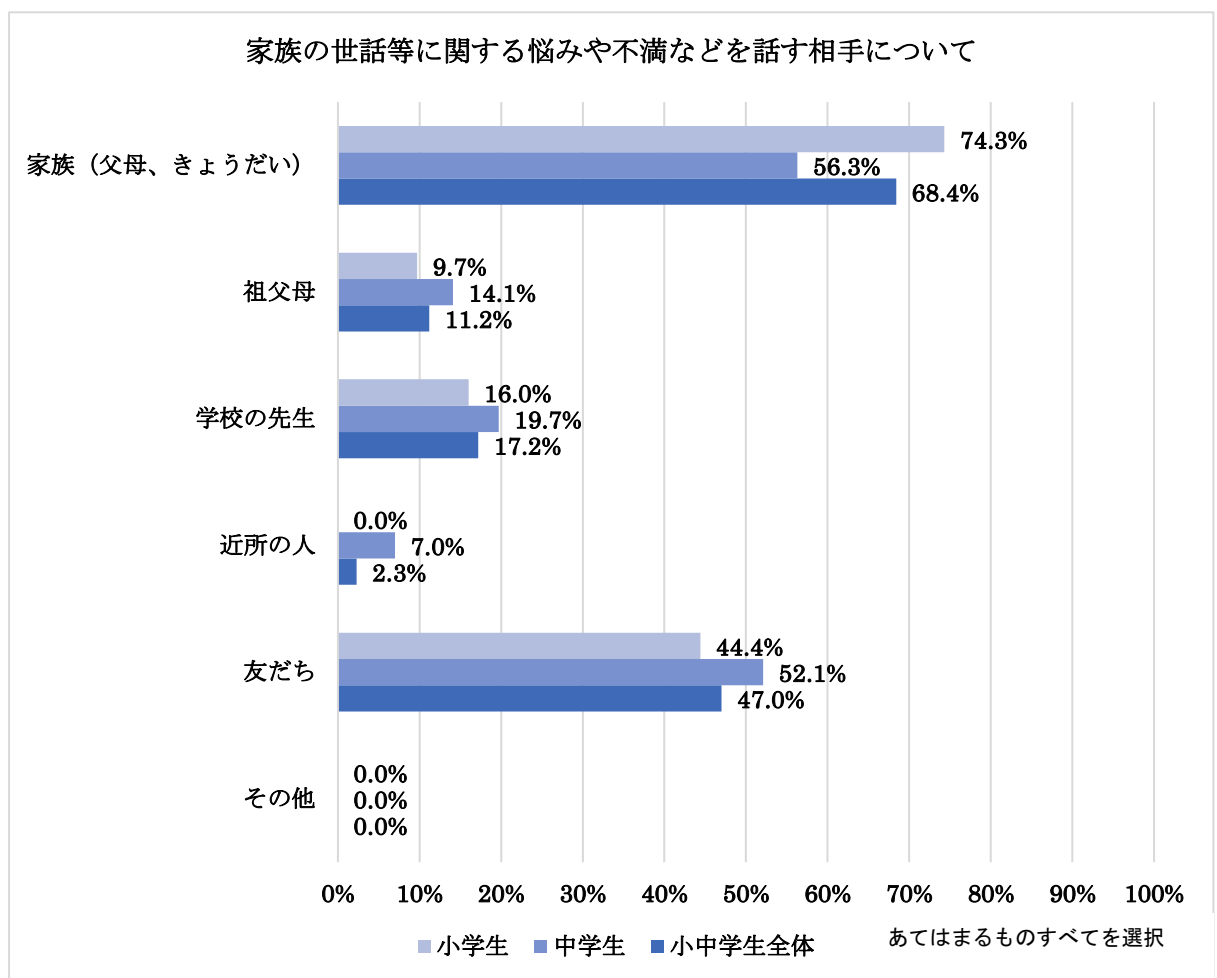
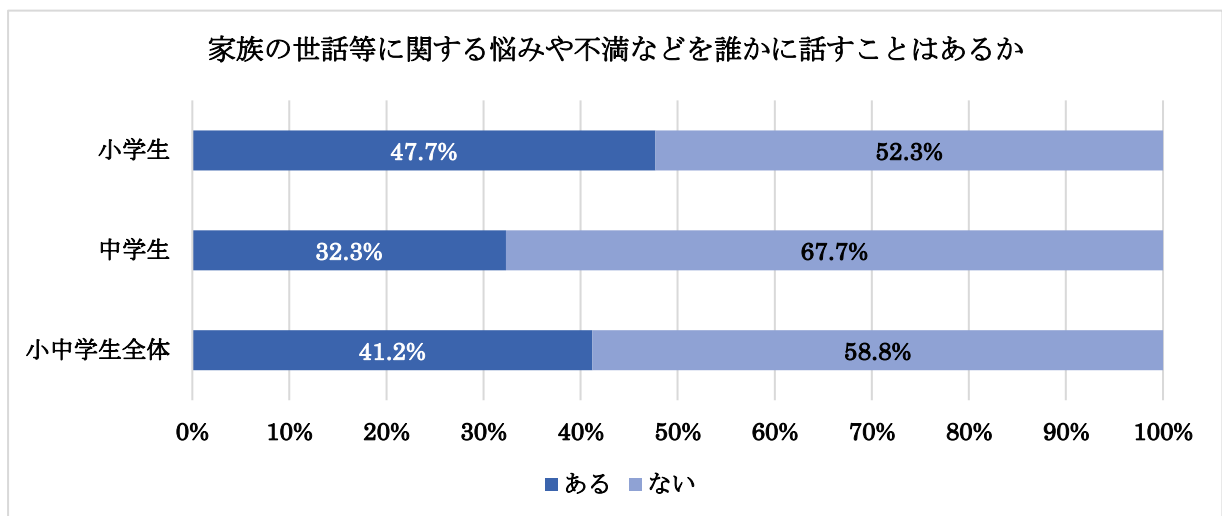
家族の世話等の内容と頻度（中学生）



大変だと思っている家族の世話等の内容として「家族の代わりに幼いきょうだいの世話をしている」を選択した小学生は、48.2%が「毎日行う」と回答し、ほかの項目と比べても「毎日行う」割合が高い。中学生についてもこの傾向はみられるものの、中学生は「毎日行う」と回答した割合は、すべての項目について3割程度であり、小学生のように顕著ではなかった。

また、「家計を支えるため労働をして、障がいや病気のある家族を助けている」を選択している小中学生がいるが、家計を支えるため労働が収入を伴うものであることと理解した上での選択かどうかは、今回の調査においては不明である。

家族の世話等に関する小中学生の悩みや不満について



家族の世話等に関する悩みや不満などを話すことがある小学生は47.7%、中学生は32.3%、小中学生全体では41.2%であった。

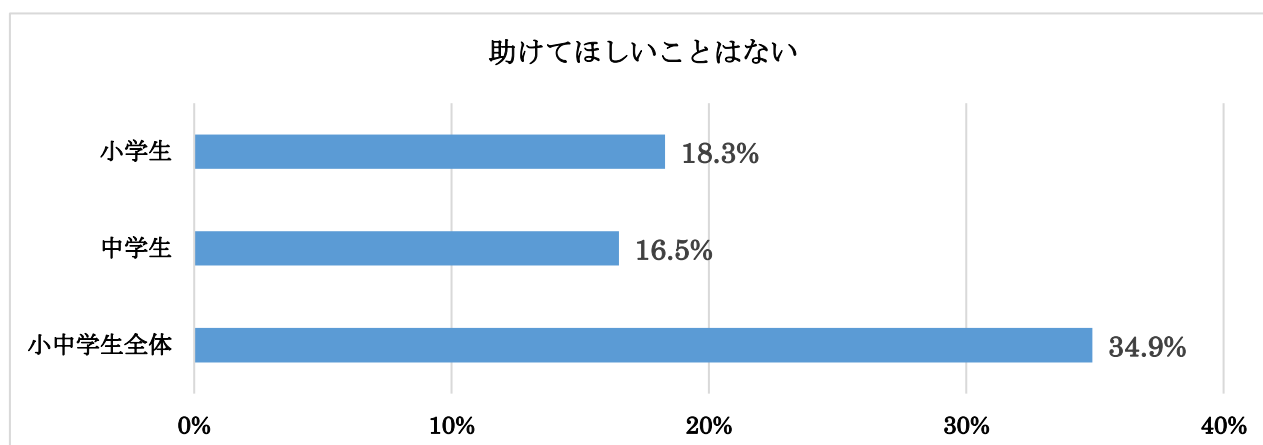
また、悩みや不満を話す相手は、小中学生ともに、家族（父母、きょうだい）が一番多く、次いで友だち、学校の先生、祖父母、近所の人となっている。

家族の世話等に関する悩みや不満などを誰かに話さない主な理由

- ・そこまで大変ではない、話すほどではないから
- ・家のことだから、家族だから、当たり前のことだから
- ・大変だけど悩みや不満はないから
- ・幸せだから、楽しいから
- ・話したくない、聞かれない、教えられたくない、ばれたくない
- ・恥ずかしい
- ・言いにくい、気まずい
- ・ばかにされるから
- ・かわいそうと思われるから
- ・怒られるから
- ・怖いから
- ・話すと心配される、迷惑をかける
- ・話しても解決しない、理解してもらえない
- ・話す機会がない、相手がいない
- ・面倒だから
- ・家族に迷惑がかかる、家族が悪く思われるから
- ・大変だから、相談に手が回らないから

家族の世話等に関する悩みや不満などを話さない理由の中には、怒られるや怖いなど虐待を想起させるものがあった。また、話しても解決しないとあきらめを感じている小中学生がいる一方で、世話をするのを幸せ、楽しいと感じている小中学生もいる。

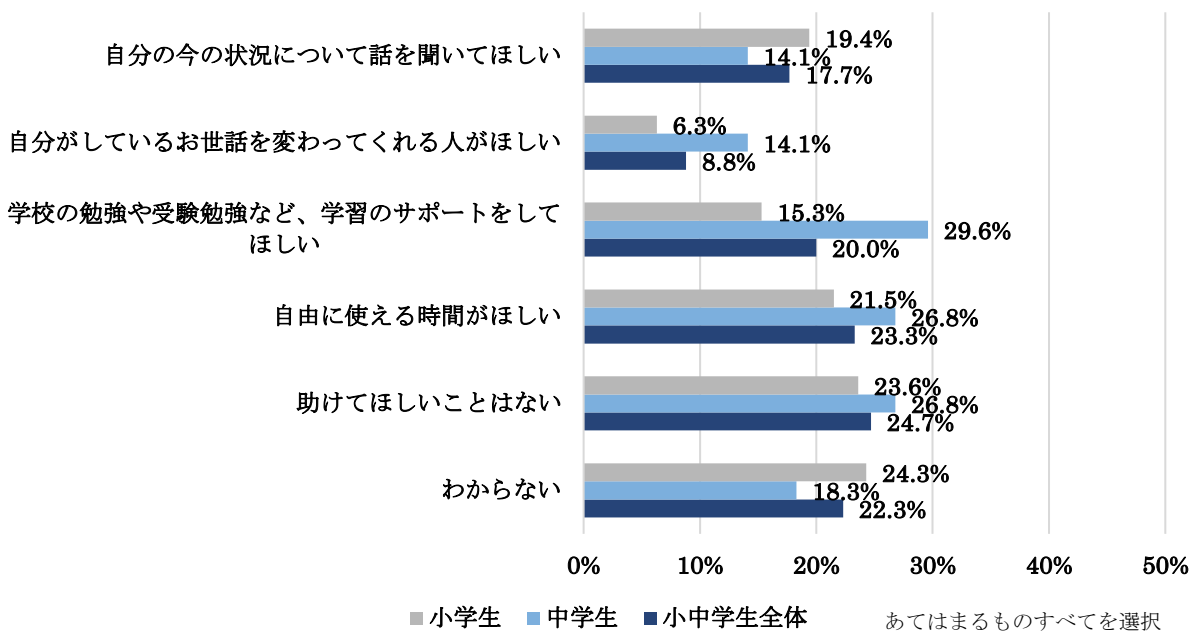
家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがある小中学生が学校や周りの大人に助けてほしいことについて



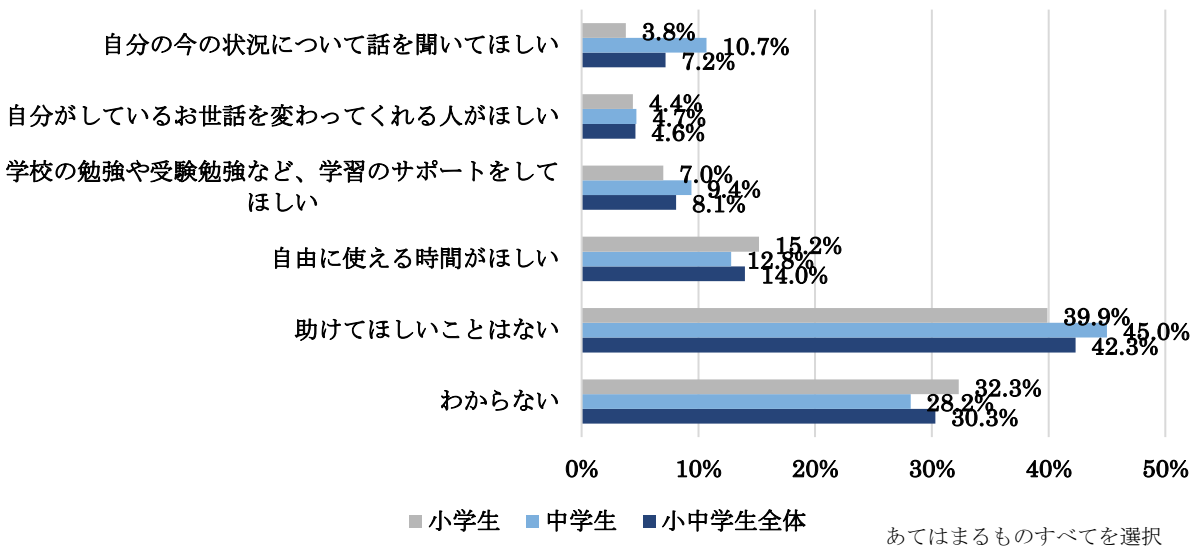
家族の世話等をする中で、大変だと思っていることがある小学生のうち18.3%、中学生16.5%、小中学生全体では34.9%が、学校や周りの大人に助けてほしいことはないと回答している。

助けてほしいことについての具体的な内容

家族の世話等に関する悩みや不満などを誰かに話すことがあると
答えた小中学生



家族の世話等に関する悩みや不満などを誰かに話すことがないと
答えた小中学生



家族の世話等に関する悩みや不満を誰かに話すことがある小中学生は、話すことがないと答えた小中学生よりも、具体的に何をしてほしいのか選択する割合が高い傾向がみられた。

家族の世話等をする生活の中で大変なことは、家庭内でのことであるためなかなか表面化しにくい。小中学生が必要な支援を受けるためには、家族ではない学校職員を始めとする様々な関わりのある大人の存在は大きい。

ヤングケアラーの可能性のある小中学生が、自分の周りに存在しているかもしれないという、大人側の意識の向上も求められる。

ヤングケアラーという言葉について

調査対象者全員の認識

